

本の万華鏡

『団地再生まちづくり』

『建て替えずにのみがえる団地・マンション・コミュニティ』

NPO団地再生研究会・合人社計画研究所編著 — 水曜社 二〇〇六年  
住み続けることを可能にする団地再生の手引書

経年が進んだ住宅団地やマンションに住んでおられる方に一読をおすすめしたい本がある。10年以上前から熱心に団地再生の研究に取り組んでいるNPO団地再生研究会のメンバーが執筆した『団地再生まちづくり 建て替えずにのみがえる団地・マンション・コミュニティ』である。この本は、団地、マンションは建て替えずに再生できると主張する。海外の成功事例や国内の活動内容、そして環境を配慮した改修工法を、第一線の研究者や建築家たちが詳しく説明している。いわば団地再生に向けての実践的指図書である。5章で構成されており、第1章は「過去の団地を 未来のまちに」、第2章は「環境にもやさしい団地再生とは」、第3章は「安全に暮らせる団地をつくる」、第4章は「団地再生はまちが再生すること」、第5章は「住み続けられる『団地設計』である。巻末には団地再生に向けて日本各地で広がっている住民や、それを支援するNPOなどの活動が紹介されており、これから団地再生を検討しようという団地住民の参考になる。

この本は、日本でいち早く団地再生の調査研究・普及活動に取り組まれた明治大学建築学科の澤田誠二教授が核となって編まれたものである。澤田教授は2002年11月に『団地再生のすすめ エコ団地をつくるオープンビルディング』(団地再生研究会編著、富安秀雄・澤田誠二監修、野沢正光編集、マルモ出版)を出版し、団地の生活、環境を甦らせるための住民主体の手法を日本に紹介された。澤田教授らが解説するドイツ、オランダ、イギリス、スウェーデンなどの団地再生事例は、正に目から鱗、こんなことまでできるのかと思うほど大胆で、抜本的な改修工事である。建て替えるか修繕するか方法がなかった日本の団地住民や建築家達にとって、幅広い選択肢があることができた意義は大きい。

平成19年12月、独立行政法人都市再生機構は、少子高齢社会や多様化する住宅ニーズに対応するために「UR賃貸住宅ストック再生・再編方針」を公表した。また都市再生機構の都市住宅技術研究所では、現在、東京都久留米市のひばりが丘団地において、住棟単位の改修・再生を目指した団地再生実験を行っている。そこでは、バリアフリー化と高齢者の自立支援、21世紀に相応しい間取り、内装・設備の実現、環境負荷の低減、遮音性能の向上等を目標に、実際の住棟を対象として実証実験が行われている。いよいよ日本でも団地再生が始まるようになっているが、各団地の未来を計画するのは住民である。専門家による技術開発の成果を活かして、慣れ親しんだ住宅団地に新たな価値を生み出し、長く住み続けるにはどうすればいいか、本書はその答えを導き出すのに役立つであろう。



推薦者 南 一誠  
(みなみ・かずのぶ)

芝浦工業大学工学部建築学科教授・学長補佐、専門分野は建築構法計画・建築設計・建築計画。1956年石川県生まれ。1979年東京大学工学部建築学科卒業。東京大学およびマサチューセッツ工科大学大学院修士。博士(工学) S.M.A.R.C. 郵政省建築部、建設省官庁営繕部勤務を経て、2005年より現職。日本建築学会総務理事。

from editor's room

『日本のニュータウン開発 - 千里ニュータウンの地域計画的な研究』住田昌二 都市文化社 (1984年)  
『日本型集合住宅の形成に関する研究』巽和夫 文部省科学研究費補助金研究成果報告書(1996-1998年)  
『日本における集合住宅計画の変遷』高田光雄 放送大学教育振興会(1998年)  
『まちづくり への新発想 - その可能性と18の視点』三好庸隆 建築資料研究社(1998年)  
『郊外の20世紀 - テーマを追い求めた住宅地』角野幸博 学芸出版社(2000年)  
『団地再生 - 甦る欧米の集合住宅』松村秀一 彰国社(2001年)  
『団地再生計画 / みかんくみのリノベーションカタログ』みかんくみ INAX出版(2001年)  
『再現・昭和30年代団地2DKの暮らし』青木俊也 河出書房新社(2001年)  
『アムステルダム・ベルマミア高層住宅団地の再生に関する研究 - オランダ国土計画と住宅政策との関連』角橋徹也他 住宅総合研究財団(2002年)  
『団地再生のすすめ - エコ団地をつくるオープンビルディング』富安秀雄、澤田誠 マルモ出版(2002年)  
『少子高齢時代の都市住宅学 家族と住まいの新しい関係』広原盛明、高田光雄、岩崎信彦 ミネルヴァ書房(2002年)

『リノベーション・スタディーズ - 第三の方法』五十嵐太郎、リノベーション・スタディーズ INAX出版(2003年)  
『「51C」家族を容れるハコとの戦後と現在』鈴木成文、上野千鶴子、山本理頭、布野修司、五十嵐太郎、山本喜美恵 平凡社(2004年)  
『郊外の社会学 現代を生きる形』若林幹夫 ちくま新書(2007年)  
『ニュータウン再生 - 引き潮時代のタウンマネジメント』秋元孝夫 多摩ニュータウン・まちづくり専門家会議(2007年)  
『二一世紀のハウジング 「居住政策」の構図』住田昌二 ドモス出版(2007年)  
『「2050年」から環境をデザインする - 都市・建築・生活の再構築』日本建築家協会環境行動委員会 彰国社(2007年)  
『僕たちの大好きな団地 - あのころ、団地はどかどかに新しかった!』洋泉社(2007年)  
『団地が死んでいく』大山真人 平凡社(2008年)  
『明日のニュータウン 様々な課題の解決と将来の展望』(財)東北産業活性化センター 日本地域社会研究所(2008年)  
『団地巡礼 - 日本の生んだ奇跡の住宅様式』石本馨 二見書房(2008年)  
『団地の見聞』大山頭 東京書籍(2008年)  
『団地再生 - 公団住宅に住み続ける』増永理彦 クリエイツカモガキ(2008年)  
『団地ノ記憶』照井啓太、長谷聡 洋和泉社(2008年)

CEL